

2021 年度 個人研究実績・成果報告書

2022 年 4 月 25 日

所属	商経学部	職名	専任講師	氏名	森 浩気
研究課題	不確実性の高い環境における管理会計の役割				
研究キーワード	管理会計, マネジメン ト・コントロール, 不確 実性, レジリエンス	当年度計画に対す る達成度		2.順調に研究が進展しており、期待どおりの 成果が達成できた	
関連する SDGs項目	12. つくる責任 つかう 責任	該当なし		該当なし	該当なし
<p>1. 研究成果の概要</p> <p>近年のグローバル化や産業構造の急速な変化, さらに新型コロナウイルス感染症への対応など, 不確実性が高い現代の環境下において, 管理会計がどのような役割を果たすか探索することが, 研究の目的であった。</p> <p>具体的には, 不確実性の高い現代の環境下にて, 意思決定能力が予算管理の逆機能に与える影響について, 検討を行った。わが国の上場企業への質問票調査から得られたデータに基づく重回帰分析を行った結果, 環境の不確実性が高い企業においては, 意思決定能力が, 予算管理の逆機能のうち「予算編成の時間過多」に逆 U 字型の影響を与えることが明らかになった。そのほか, 意思決定能力が「ミドルによる目標の容易化」ならびに「ミドルによる数字合わせ」という逆機能に, それぞれ逆 U 字型の影響を与えることも明らかになった。</p> <p>一連の研究について, 下部に記載のとおり学会報告を行い, その際にフルペーパーの執筆を行った。本報告書の提出時点では, 学術雑誌への投稿に向け, 分析の精査ならびに仮説導出の理論的検討を進めている。</p> <p>そのほか, 研究の過程で, 不確実な環境下においては意思決定を複雑にする, いわば「重い」管理会計が組織に負の影響を与えかねないこと, そのような意思決定の課題にはマーケティングや経営学, 経済学といった周辺領域で研究が進んでいること, そしてそれらの領域においては神経科学の知見や手法を応用した研究が行われていることを把握した。特に神経科学の知見や手法を応用した研究は, 管理会計領域では緒に就いたばかりであり, 今後大きく進展する可能性がある。この点を明らかにし, 研究の発展可能性を考察していく必要があるという研究上のインプリケーションが得られたため, 下記に記載する研究助成への申請を行い, 受理されている。</p> <p>2. 著書・論文・学会発表等 (査読の有無及び海外研究機関等の研究者との国際共著論文がある場合は必ず記載)</p> <p>【論文 (査読あり)】</p> <p>【著書・論文 (査読なし)】</p> <p>【学会発表等】</p> <p>「予算管理の逆機能を引き起こす要因: 意思決定能力が与える正負の影響」日本原価計算研究学会第 47 回全国大会 (2021 年 9 月)</p>					

3. 主な経費

主要な経費の使途は、下記のとおりである。第一に、統計分析を行うためのソフトウェア（サブスクリプション）を購入した。第二に、管理会計領域に加え、経営学やマーケティングなども含めた、学術書、実用書を購入した。第三に、研究報告や情報収集を行うため、学会の年会費を支出した。そのほか、研究者と議論を行うためのオンラインミーティングに関する費用や、論文の閲覧、情報整理を行うためのPC周辺機器やソフトウェアの購入費を支出した。

4. その他の特筆すべき事項（表彰、研究資金の受入状況等）

公益財団法人牧誠財団に、研究テーマ「管理会計研究における神経科学の応用可能性」が挑戦的萌芽研究助成として採択された（助成対象：2022年1月1日～同年12月31日）。